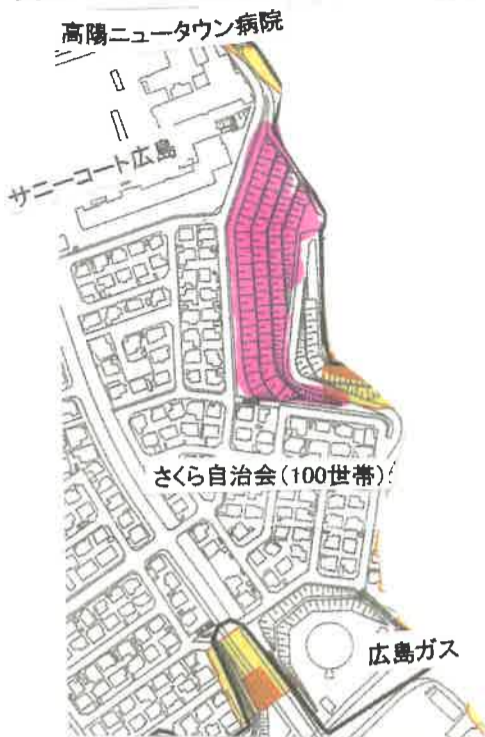


# 団地の法面を彩る会 成果発表資料

## I 団地の法面を彩る会の紹介と活動の場所案内

私たちの会は、高陽ニュータウンA団地の亀崎学区に住むさくら自治会の有志が集って、居住区の環境を少しでも心地よい姿に変えて行こうと力を注いでいる団体です。



②法面の全体像。南北に4本の排水溝で区切られ、東西は五か所の縦溝で区分されています。法面の傾斜角度は30度で三角形のコンクリート製型枠で構築されている。



③私たちが草刈などで手を入れているのは最上段の1本だけで、これさえも両端は手つかずで雑木林になっています。



④比較的に早くから手入れしてきた北の区域はクズなどの頑健な雑草が抑えられ、意識的にシランの球根を植えたので、一面の「お花畑」のようになり、里山風の景観になりつつあります。



⑤シランが他の雑草から卓越した姿を見ると、これまでの努力が実った感があります。南側の区域も彼岸花が目立つようにな

①上の地図は広島市発行のハザードマップの一部分。ピンクの部分で法面で住居表示では安佐北区亀崎四丁目8番になります。縮尺は1センチが53mなので、南北が約185m、東西が約60mの平面になり、花壇として利用しているのは法面の最上部にできた細長い平地です。



⑥最上部の平地に2畝のサツマイモを植えました。子ども対象の芋掘り・焼き芋大会を開催するために。収穫は30キロほど。

## II 活動の状況とメンバーの意気込み

会の運営については、何らかの取り決めがある訳ではないのですが、とても自然な形で役割分担ができています。それが不思議なほどに円滑に回っています。そんな雰囲気は植えた花からも伝わるのでしょうか。お散歩で通りすがりの皆さんが声をかけてくださり、「いつもきれいな花をありがとう」の言葉をいただき、こちらが恐縮するほどです。



③少子・高齢化の典型的な地域となっています。わが自治会でも「子は宝」であり、コロナ禍で過酷な状況に置かれているのも子供たち。親子連れで賑わいました。



②切り花の「お持ち帰り」を設けたのは大好評でした。これからはもっと頻度を多くしたいと思っています。

①年間で20種類以上の花を咲かせてきましたが、散歩の皆さんがスマホのカメラを最も多く向けられたのはチューリップでした。童謡にあるように、赤白黄色、どの花みても綺麗だなと思います。



④食べ物は焼き芋のほかに大学芋・芋づるのかき揚げで盛り上げました。意外にも芋づるが大人気で「お持ち帰り」の人もいました。

## III 今後の課題と展望

折角なので植えるなら珍しいものが喜ばれます。その乗りで言えば、ある種のシャレで「観葉作物」とか「観様作物」もいいのではないかと。写真は2鉢ともゴボウ。左は焼き芋の釜を自作した排水樹で育てる段取りです。年配の人でもゴボウが分からない方もおられます。その花も意外に綺麗だということも。そんな企画物として、今年は「どでカボチャ」の異名をとる「アトランチック・ジャイアント」にチャレンジしたい。50~100キロになると言われているので、とりあえず80キロを目指します。また、高齢者を意識して東北の伝統料理「芋煮会」を挙げるべく、里芋を栽培する予定です。

